

三学期始業式式辞

みなさん、明けましておめでとうございます。

平成31年が明けました。今日が平成30年度の三学期、そして平成31年度ゼロ学期のスタートです。お正月にあなた達は「新年の抱負」を考えたことと思います。もちろん私も新年の決意をしました。今まで、私はあなた達に年度の初め、「ピグマリオン効果」と「努力は110%」と言う話をしてきました。1年生もいますのでこの2つについて簡単に触れます。古代ギリシアにキプロスというという国がありました。この国のピグマリオンという王様が「自分の妃になる人の目はこんなきれいな目で、髪はこんな金髪で・・・」と理想の女性像を作っていると神様が現れて、その像を本物の女の人にしてくれというお話でした。もうひとつは水泳の話でした。100mを1分20秒で10本泳げる2人の選手がいます。一人は苦しいのを我慢して1分15秒で泳ぐ練習をします。初めはとてつもなく苦しいのですがしばらくすると15秒で10本泳ぎきれるようになり、さらにはあれほど苦しかった15秒が苦しくなくなり、もっと制限タイムを上げることができました。一方もう一人はちょっと力を抜いて5秒おそく、楽な練習を続ける。しばらくすると25秒が楽ではなくなり、もっとゆっくり泳がないと楽と感じなくなったという話です。つまり自分がこうなりたいという理想の姿を常に持ち続けること、努力は自分の

力をちょっと超えたものでないと伸びないのです。これが「ピグマリオン効果」と「努力は110%」と言うお話でした。

さて、今日のお話はこの話に付け加えるエピソードです。私がある中学校の水泳部の顧問をしていた時の事です。昨年度の学校便りに書いたので2,3年生は覚えている人がいるかも知れません。ある年の春、Nさんと言う1年の女生徒が私のところへ来てこう言いました。「私、病気で直射日光に当たれないんです。水泳部のマネージャにしていただけませんか」「それなら何もマネージャなんかやらずに文化部にすればいいんじゃないの」「それも考えたんですけど、あんまり入りたい部も無いし……。それに私、スポーツする人のそばにいたいから」こんなやり取りの末、Nさんは水泳部のマネージャになります。大会の日です。Nさんは大っきなチューリップハットをかぶって日が当たらないようにし、私のアシスタントをしてくれます。「今日のアップはスカーリング100、1コメ4本、ロング800、KC100×10だ。KCは個人メドレーには二種目チョイスさせてくれ。それとリレーだけれど今日は男子の一泳をMにして先行逃げ切りで行く、女子はいつもと同じだ。メンバに伝えてオーダ用紙をお昼までに提出しておいてくれ。」「ハイわかりました。」水泳部員ではあるけれど試合の日、彼女のバッグの中には水着もキャップもゴーグルも入っていません。筆箱とバインダとスト

ップウォッチだけです。Nさんが、「私も運動ができたらいいな」と思ったように、あなた達が目標を決めて、110%の努力を始めると「こうだったらいいのに」と思うことに必ず出会わうはず。100%完璧な人なんかどこにも居ないから。

しかしその時、「そうならないのなら、こうしてみよう」と別の方法切り替えるいいと思います。Nさんが「運動できたらいいな、でもできないならマネージャになろう」と考えたように。

以前も言いましたが、このような力を「復元力」といいます。平成31年のスタート。新しい進路に向けて旅立つ3年生はもちろん、1, 2年生にとっても「全て思い通りの年になる」事はないと思います。自分の思ったようにならなかった時、盛り返せる復元力を持ったあなた達でいて欲しいのです。そうすれば、逆に「うまくいった」と思うことにも必ず出会えると確信しています。

以上、平成30年度三学期、平成31年度ゼロ学期の始業式の式辞と致します。